

令和2年度 有明の丘研修 第2期 実施状況

令和2年度の有明の丘研修 第2期の実施状況として、実施概要と実施報告を次の通り報告する。

1. 令和2年度 有明の丘研修 第2期の概要

1-1. 実施スケジュール

1-2. 各コースのカリキュラム等

2. 令和2年度 有明の丘研修 第2期の実施報告

2-1. オンデマンド講義に関するアンケート結果

2-2. リアルタイム演習に関するアンケート結果

2-3. 人的ネットワークの構築に関するアンケート結果

2-4. オンデマンド講義の特徴的な工夫

2-5. 各コースのリアルタイム演習の特徴

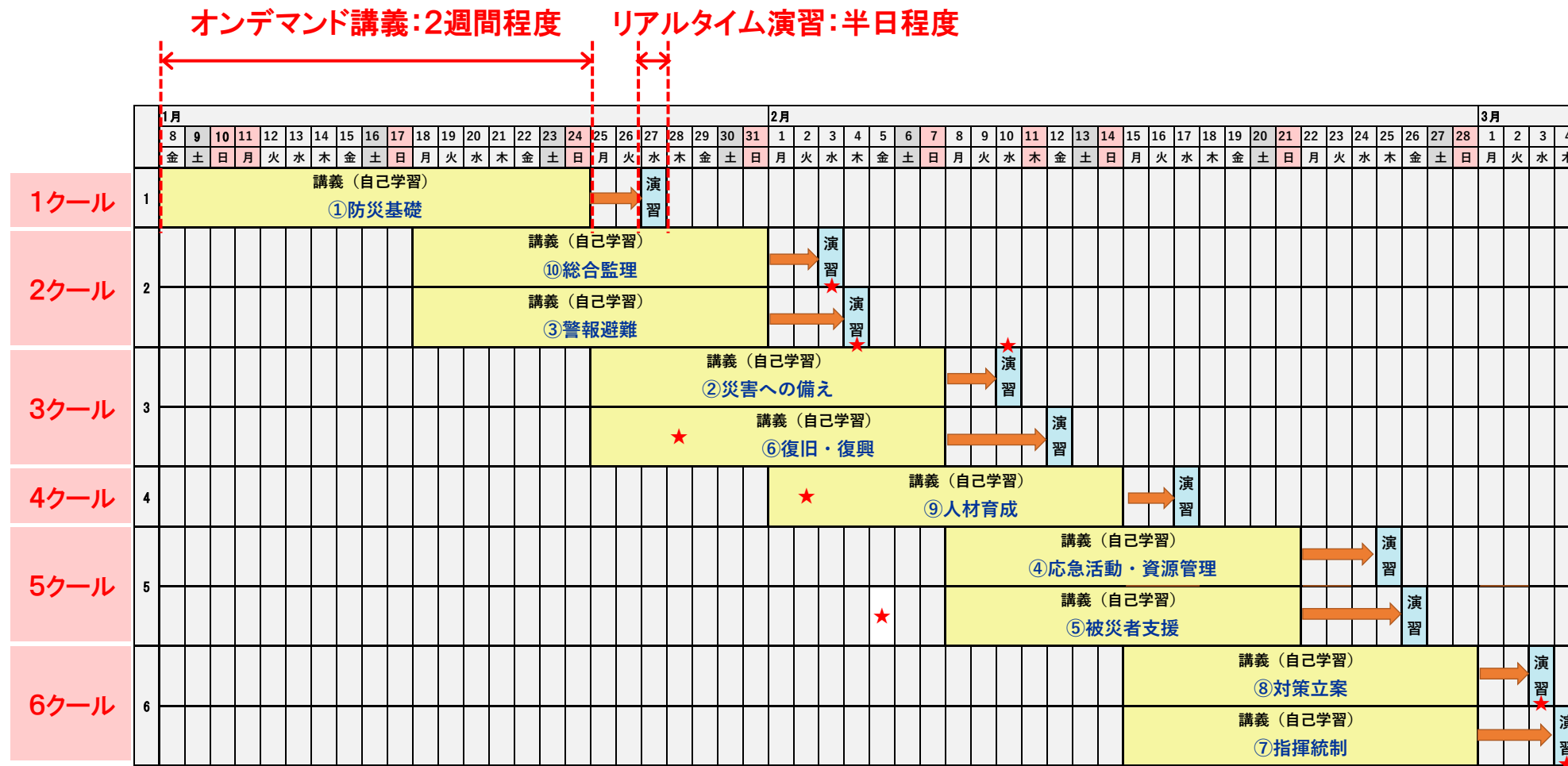
1. 令和2年度 有明の丘研修 第2期の実施概要

1-1. 実施スケジュール

1月8日から3月4日までの期間を6クールに分け、1クールごとに1～2コース割り当てた。

コースごとに、オンデマンド講義の受講期間を2週間程度設け、3～5日後に半日程度のリアルタイム演習を実施した。

また、いくつかのコースで、LMS開始前後やリアルタイム演習の当日に、人的ネットワーク構築のための交流の場が設けられた。



★: 人的ネットワークの構築のための交流の場

②各コースのカリキュラム等

各コースのオンデマンド講義及びリアルタイム演習について、実施日、カリキュラム、実施時間、修了者数等は下記の通りである。

赤字：令和2年度第1期からの変更箇所

コース	防災基礎	災害への備え	警報避難	応急活動・資源管理	被災者支援	復旧・復興	指揮統制	対策立案	人材育成	総合監理
日程	1月8日(金) ～24日(日)	1月25日(月) ～2月7日(日)	1月18日(月) ～31日(日)	2月8日(月) ～2月21日(日)	2月8日(月) ～2月21日(日)	1月25日(月) ～2月7日(日)	2月15日(月) ～2月28日(日)	2月15日(月) ～2月28日(日)	2月1日(月) ～2月14日(日)	1月18日(月) ～1月31日(日)
オンデマンド講義	1 防災基礎総論	1 「災害への備え」総論	1 警報避難総論	1 応急活動・資源管理総論	1 被災者支援総論	1 復旧・復興総論	1 指揮統制総論 (世界標準に則した指揮統制)	1 対策立案総論	1 人材育成総論	1 総合防災政策
	2-1 ハザードのメカニズムと実態 (風水害)	2 「災害への備え」としての地域防災計画、地区防災計画	2 警報等の種類と内容	2 初動対応における国との連携	2 災害救助法と被災者生活再建支援法	2 公共基盤の復旧 (基盤復興Ⅰ)	2 指揮統制の世界標準 (危機対応に必要な役割(部門)と機能)	2 指揮統制の世界標準 (危機対応に必要な役割(部門)と機能)	2 訓練・研修の実際	2 総合的な被害抑止施策の実施
	2-2 ハザードのメカニズムと実態 (火山災害)	3 防災教育・災害教訓の伝承	3 避難勧告等の判断・伝達	3 地方公共団体間の相互応援と受援体制	3 避難所のライフサイクル	3 仮設住宅 (生活復興Ⅰ)	3 仮設住宅 (生活復興Ⅰ)	3 指揮統制の現状	3 訓練・研修企画手法	3 リスク評価に基づく災害対応の検証
	2-3 ハザードのメカニズムと実態 (地震・津波災害)	4 企業防災	4 土砂災害における警報と避難	4 災害廃棄物処理	4 避難所運営の実際	4 コミュニティ再生 (社会復興)	4 コミュニティ再生 (社会復興)	4 日本社会に適した指揮統制のあり方 (危機対応組織を動かす6つの視点と14の原則)	4 訓練企画運営実践Ⅰ (状況付与型図上演習)	4 応急対策の実態
	3 地域の脆弱性と被害の実態	5 行政のBCP、BCM	5 土砂災害の事例に学ぶ	5 救援物資の調達/救援物資の輸送	5 要配慮者をはじめとする避難者の避難生活支援	5 市街地の復興まちづくり (基盤復興Ⅱ)	5 市街地の復興まちづくり (基盤復興Ⅱ)	5 リーダーシップのあり方	5 地域防災リーダーの育成	5 大規模災害の検証と対応
	4-1 防災行政概要	6 住民啓発	6 風水害における警報と避難	6 活動拠点・環境の確保	6 医療による被災者支援	6 住まいの再建 (生活復興Ⅱ)	6 住まいの再建 (生活復興Ⅱ)	6 参謀にとつての災害対策本部運営	6 効果的な災害対応計画・マニュアルの立案演習	
	4-2 災害法体系	7 地域の自主的な防災活動	7 風水害からの警報避難における決心	7 救援物資ロジスティクス演習	7 多様な主体による被災者支援/被災者支援の個別課題	7 地域産業の復興と雇用確保 (産業復興)	7 地域産業の復興と雇用確保 (産業復興)	7 災害広報演習	7 災害対策本部運営演習	
	4-3 防災計画	8 災害ボランティア	8 風水害におけるタイムライン計画		8 生活再建支援業務					
			9 避難場所・避難所の認定と適否判断							
	時間計	7:56 (476分)	7:00 (420分)	7:10 (430分)	7:47 (467分)	8:53 (533分)	9:51 (591分)	7:15 (435分)	6:15 (375分)	3:33 (213分)
リアルタイム演習	12:30～ オリエンテーション 受講者自己紹介	13:00～ オリエンテーション 受講者自己紹介	13:00～ オリエンテーション 受講者自己紹介	13:00～ オリエンテーション	13:00～ オリエンテーション 受講者自己紹介	13:00～ オリエンテーション 受講者自己紹介	13:00～ オリエンテーション 受講者自己紹介	13:00～ オリエンテーション 受講者自己紹介	13:00～ オリエンテーション 受講者自己紹介	13:00～ オリエンテーション 受講者自己紹介
	12:50～ 災害対応過程と態度を学ぶ ・グループ討議(2回)+発表 ・解説	13:20～ 「災害への備え」ワークショップ ・グループ討議+発表 ・解説	13:25～ 避難場所・避難所の認定と適否判断 ・個人ワーク ・解説	13:00～ 資源管理演習 ・グループ討議+発表 ・解説	13:50～ 災害時のトイレ問題(演習) ・講義 ・グループ演習 ・ファシリテーター発表	13:25～ 復旧・復興演習 (復旧・復興の対策の事前準備) ・グループ討議+発表 ・講義 ・質疑応答	13:50～ 災害広報演習 ・記者会見・講評 ・グループ討議 ・質疑応答	13:55～ 災害対策本部運営演習 ・グループ討議(2回)+発表	13:30～ 訓練企画運営実践Ⅱ (討議型図上演習) ・グループ討議+発表	13:20～ 災害対策本部体制 ・講義(30分)×2人 ・質疑応答
	17:00～ 質疑応答	全体討論	全体討論	質疑応答	全体討論「コースのふりかえり」	全体討論	全体討論	全体討論	人材育成に関するテーマ別情報交換会(仮)	全体討論
		15:05～ ・グループ討議+発表	14:35～ ・グループ討議+発表	15:02～ ・各単元の質問への解説/回答	15:00～ ・グループ討議+発表	15:00～ ・グループ討議+発表 ・講義	16:10～ ・各単元の質問への解説/回答 ・グループ討議+発表	15:20～ ・各単元の質問への解説/回答 ・グループ討議+発表	14:40～ ・テーマごとに部屋を作り討論	14:45～ ・質疑応答・意見交換 ・講義
		16:42～ 質疑応答	15:50～ 質疑応答	16:07～ 全体で受講者自己紹介(感想含む)		16:10～ 質疑応答			人材育成プログラム作成演習 ・グループ討議+発表+講師コメント(3回)	
時間計	5:00 (300分)	4:15 (255分)	4:30 (270分)	1:30 (90分)	3:00 (180分)	4:00 (240分)	4:30 (270分)	4:30 (270分)	4:30 (270分)	3:00 (180分)
時間合計	12:56 (776分)	11:15 (675分)	11:40 (700分)	9:17 (557分)	11:53 (713分)	13:51 (831分)	11:45 (705分)	10:45 (645分)	8:03 (483分)	11:08 (668分)
交流の場		10:30～ お悩み情報交換会 (自由参加)	16:30～ 自由交流会 (自由参加)	16:07～ 自己紹介(感想)	2/5(金) 9:15～ 演習班ごとに自己紹介	1/28(木) 10:00～ 交流会 (自由参加)	～17:30 質問会 (自由参加)	～17:30 質問会 (自由参加)	2/2(火) 午前中 オープニング交流会 (自由参加)	
申込者数	259人	233人	172人	178人	144人	83人	123人	151人	108人	103人
受講確定者数	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人
オンデマンド修了者数	54人	54人	54人	53人	51人	55人	50人	53人	56人	56人
演習修了者数	56人	50人	54人	48人	49人	47人	48人	51人	52人	55人
修了者数	54人	50人	54人	48人	49人	47人	47人	50人	50人	55人

2. 令和2年度 有明の丘研修 第2期の実施報告

2-1. オンデマンド講義に関するアンケート結果

① オンデマンド講義について(受講者)

「講義の満足度」は、オンデマンド講義全体で88.4点であり、「講義の方法や進め方の理解のしやすさ」「テキストの視認性・分量の適切さ」とも、オンデマンド講義全体で「非常にそう思う」「そう思う」の合計が85%以上であった。この結果から、オンデマンド講義であっても、令和元年度と同程度の講義が提供できていたといえる。

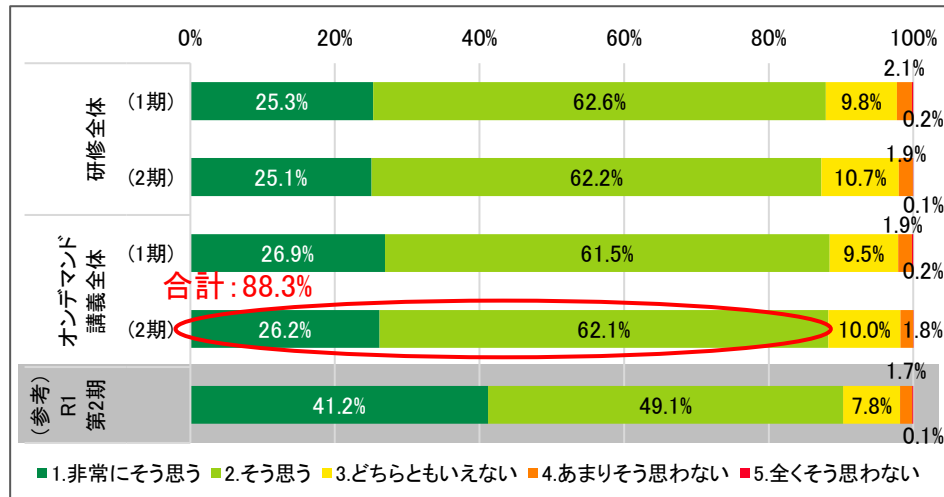
● 講義の満足度

この講義・演習の内容に対する満足度を100点満点で評価してください。

コース	点数	
	1期	2期
研修全体	86.8点	88.2点
オンデマンド講義全体	86.9点	88.4点
(参考) 令和元年度 第2期	87.7点	

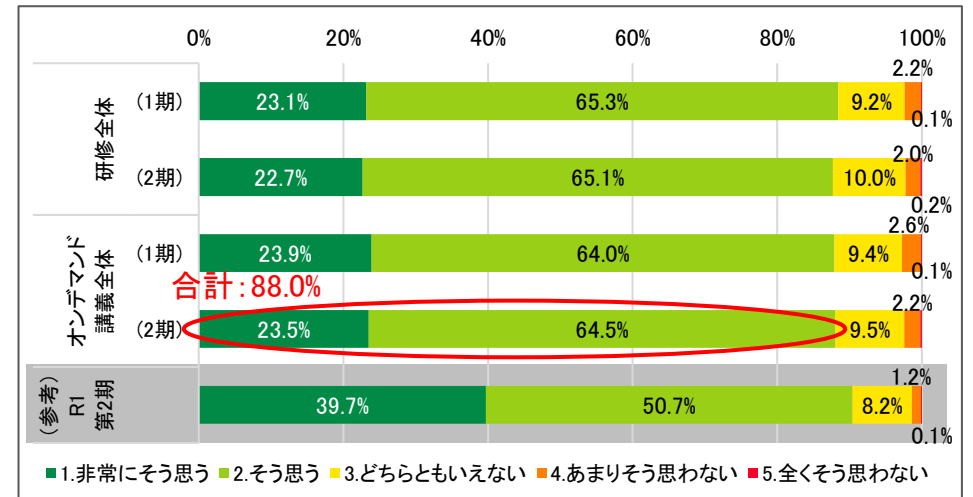
● 講義の方法や進め方の理解のしやすさ

講義・演習の方法や進め方(話し方・態度・時間配分・作業・班割り等)は、理解しやすかったですか？



● テキストの視認性・分量の適切さ

テキストの視認性(見やすさ、分かりやすさ)や分量は適切でしたか？



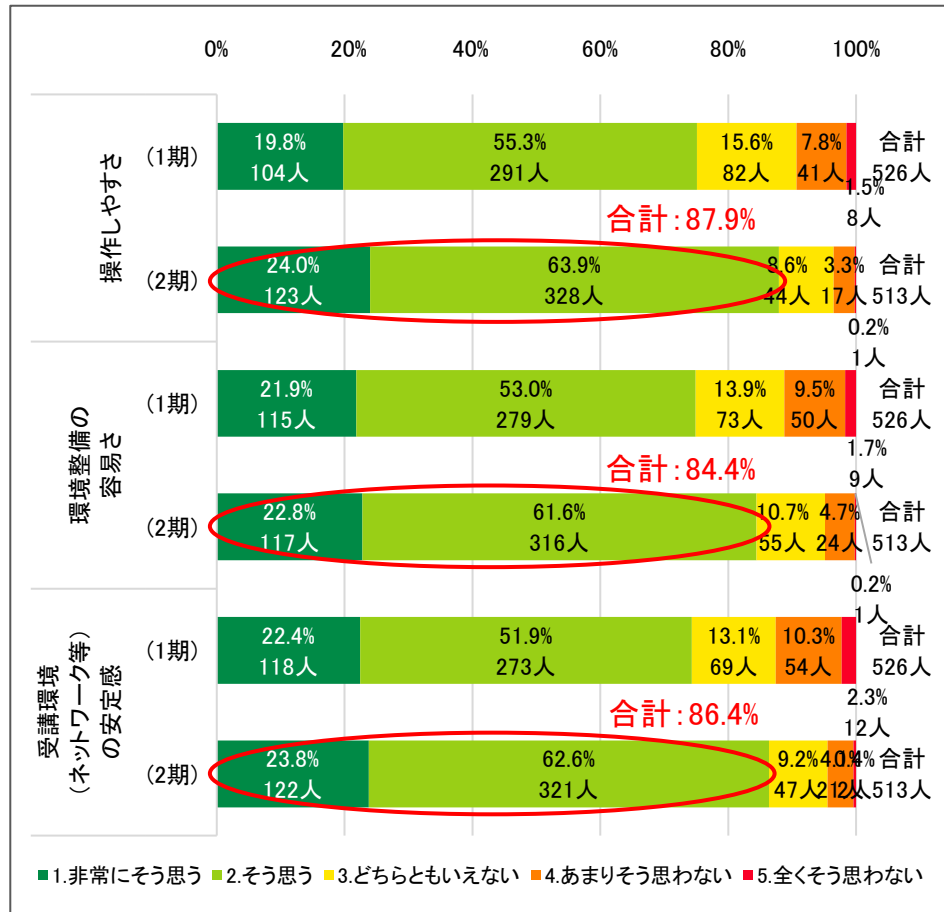
2-1. オンデマンド講義に関するアンケート結果

② オンデマンド講義及びシステム(LMS)について

システム(LMS)の「操作しやすさ」、「環境整備の容易さ」、「受講環境(ネットワーク等)の安定感」は、受講生の80%以上が「非常にそう思う」「そう思う」と解答している。オンデマンド講義の受講にあたって困ったことについては、「ネットワークの問題でうまく接続できないときがあった」等の意見が挙げられた。講師・コーディネーターからは、「動画テキストを地域研修や他の研修にも活用してはどうか」など今後の活用についてもご意見いただいた。

● システム(LMS)の評価

- ・オンデマンド講義(LMS)のシステムは操作しやすかったですか？
- ・オンデマンド講義(LMS)の受講にあたって、環境整備は容易でしたか？
- ・オンデマンド講義(LMS)の受講環境(ネットワーク等)は安定していましたか？



● 受講者意見

今回が初めての取組みとなりますオンデマンド講義(LMS)やリアルタイム演習(Zoom)について、今後の改善に役立てたいため、環境の整備や受講環境等、受講にあたって困ったこと等、ございましたら自由にお書きください。

※オンデマンド講義のシステム(LMS)に関する意見を抜粋

- ・ ネットワークの問題でうまく接続できないときがあった(2人)
- ・ アンケートの途中保存機能やより詳細な再生速度設定等、LMSの機能を充実して欲しい(2人)の機能を充実してほしい(3人)

● 講師意見(第2期は新たに撮影した講師のみにアンケート)

講義の撮影やリアルタイム演習について、気づいた点や改善点などがあればお書きください。
※研修全体のオンデマンド講義の改善につながる意見を抜粋

- ・ オンデマンド講義による実施は、リアルタイムでの講義に比べ通信トラブルが回避できるため良い(1人)

● コーディネーター意見

各単元について、気づいた点や改善点などがあればお書きください。
※研修全体のオンデマンド講義の改善につながる意見を抜粋

- ・ 動画テキストを地域研修や他の研修にも活用してはどうか(1人)

2-2. リアルタイム演習に関するアンケート結果

① リアルタイム演習について(受講者)

「演習の満足度」は、リアルタイム演習全体で87.3点であり、「演習の方法や進め方の理解のしやすさ」「テキストの視認性・分量の適切さ」とも、リアルタイム演習全体で「非常にそう思う」「そう思う」の合計が80%以上であった。この結果から、リアルタイム演習であっても、令和元年度と同程度の演習が提供できていたといえる。

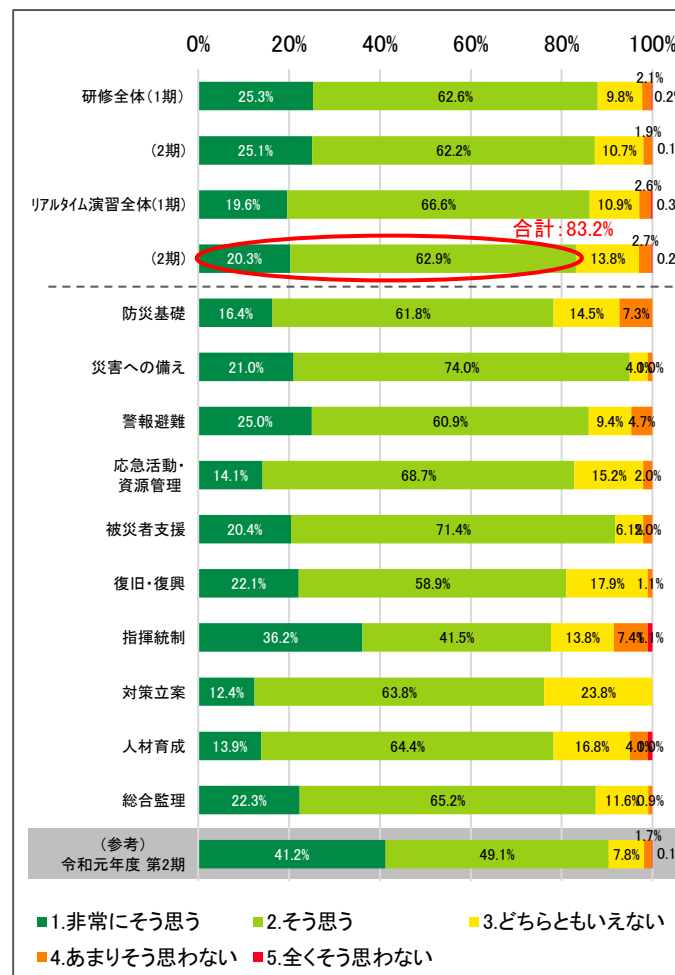
● 演習の満足度

この講義・演習の内容に対する満足度を100点満点で評価してください。

コース	点数	
	1期	2期
研修全体	86.8	88.2
リアルタイム演習全体	86.5	87.3
防災基礎	86.1	87.5
災害への備え	85.5	89.8
警報避難	88.4	87.0
応急活動・資源管理	83.9	85.5
被災者支援	91.0	88.7
復旧・復興	86.1	89.1
指揮統制	87.7	87.4
対策立案	83.4	85.9
人材育成	86.3	83.4
総合監理	88.0	89.1
(参考)令和元年度第2期	87.7	

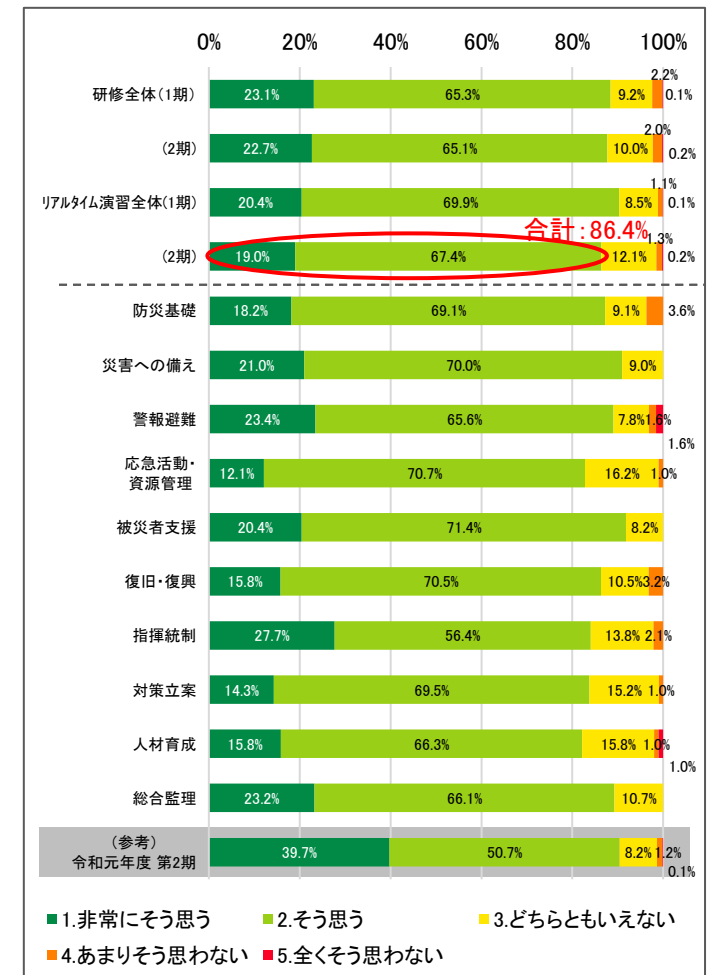
● 演習の方法や進め方への理解度

講義・演習の方法や進め方(話し方・態度・時間配分・作業・班割り等)は、理解しやすかったですか？



● テキストの視認性・分量の適切さ

テキストの視認性(見やすさ、分かりやすさ)や分量は適切でしたか？



2-2. リアルタイム演習に関するアンケート結果

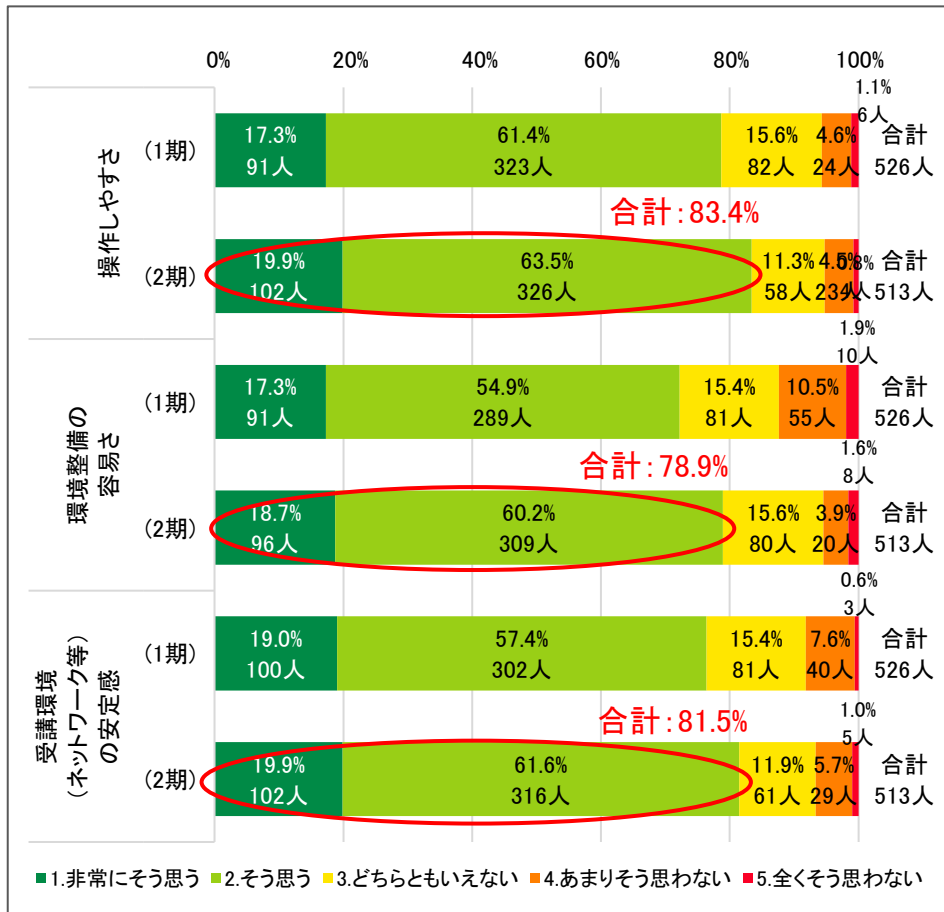
②リアルタイム演習及びシステム(Zoom)について

システム(Zoom)の「操作しやすさ」、「環境整備の容易さ」、「受講環境(ネットワーク等)の安定感」は、受講生の80%程度が「非常にそう思う」「そう思う」と解答している。リアルタイム演習の受講にあたって困ったことについては、「TV会議が可能なPCの手配や受講用の部屋の確保等の対応が必要だった」が最も多く見られ、その他にもネットワークや操作、音声面でのトラブルについての意見が挙げられた。

講師からは、「チャット機能、画面共有、アンケート等の機能を効果的に使ってはどうか」という意見も得られた。

● リアルタイム演習のシステム(Zoom)の評価

- リアルタイム演習(Zoom)のシステムは操作しやすかったですか？
- リアルタイム演習(Zoom)の受講にあたって、環境整備は容易でしたか？
- リアルタイム演習(Zoom)の受講環境(ネットワーク等)は安定していましたか？



● 受講者意見

今回が初めての取組みとなりますオンデマンド講義(LMS)やリアルタイム演習(Zoom)について、今後の改善に役立てたいため、環境の整備や受講環境等、受講にあたって困ったこと等、ございましたら自由にお書きください。

※リアルタイム演習のシステム(Zoom)に関する意見を抜粋

- TV会議が可能なPCの手配や受講用の部屋の確保等の対応が必要だった(33人)
- ネットワークの問題でうまく接続できないときがあった(7人)
- 事前接続確認の機会増加や入念な動作確認をして欲しい(6人)
- Zoomや機材を使うのが初めてで操作にとまどった(5人)
- マイクが使えない、音が出ない等のトラブルがあった(4人)
- 事前にマニュアル等を示して欲しい(2人)

● 講師意見(第2期はリアルタイム演習を実施した講師のみにアンケート)

講義の撮影やリアルタイム演習について、気づいた点や改善点などがあればお書きください。
※研修全体のリアルタイム演習の改善につながる意見を抜粋

- チャット、画面共有、アンケート等の機能を効果的に使ってはどうか(3人)
- ディスカッションの時間が短かった(2人)
- 質疑応答の時間は多く確保した方がよい(2人)
- 受講者の反応を確認できない点が難しかった(1人)

● コーディネーター意見

各単元について、気づいた点や改善点などがあればお書きください。
※研修全体のリアルタイム演習の改善につながる意見を抜粋

- 遠方からの参加者も散見され、オンライン開催のメリットはあった
- 集合研修ではシールを使って受講者に投票をしてもらっていたものをチャットで代替してみたがよかった。
- ブレイクアウトルームに講師を配置し、自由に部屋を移動できる情報交換の場を設けたが、時間の制限もあり移動できなかった受講者も多かった。
- リアルタイム演習に不慣れた受講者にも討論を促せるよう工夫したい。

2-3. 人的ネットワークの構築に関するアンケート結果

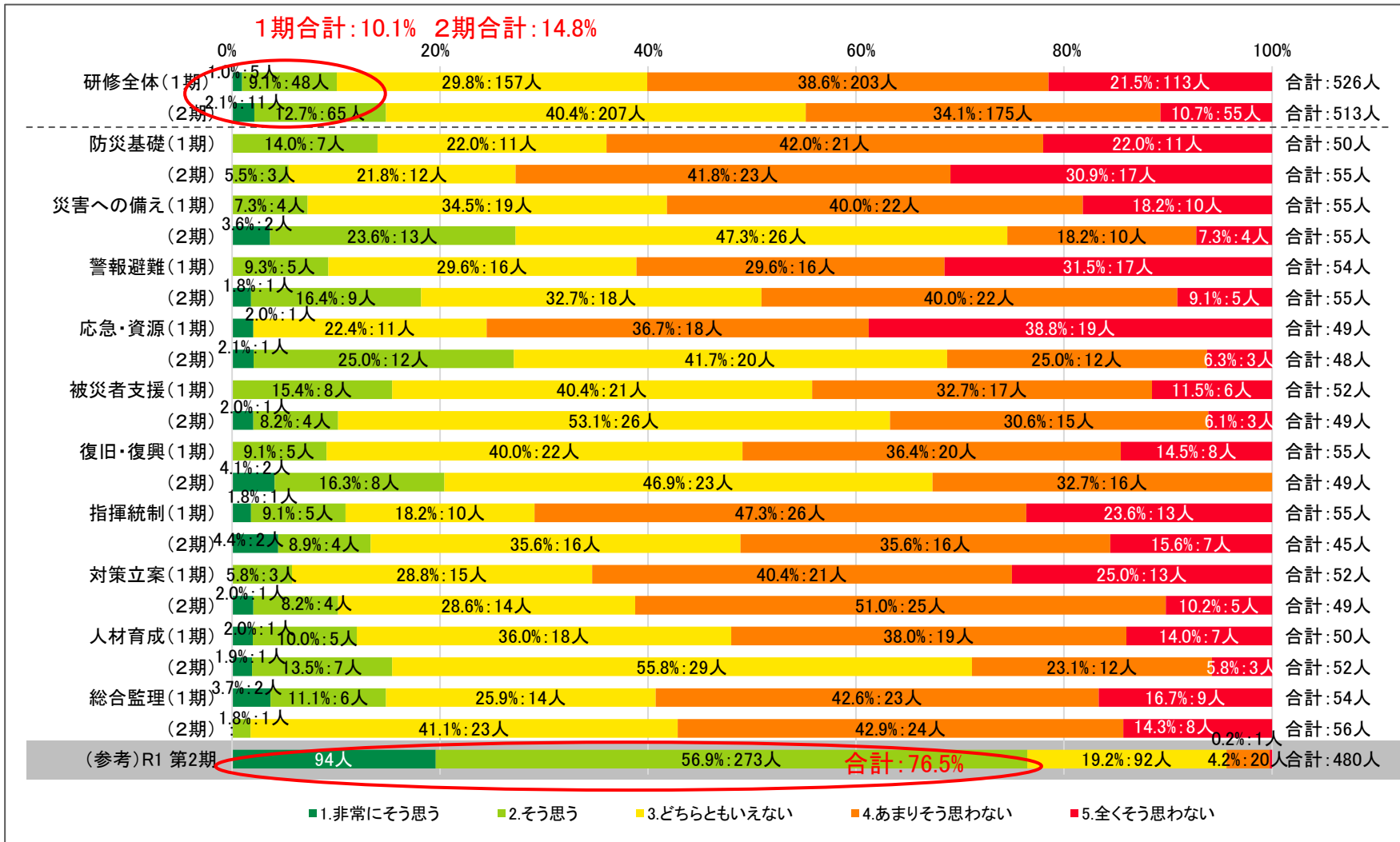
① 人的ネットワークについて(受講者)

今年度の研修全体の1期では、「非常にそう思う」「そう思う」が10.1%に対し、2期は14.8%と改善がみられる。コース別に1期と2期を比較すると、全体的に「非常にそう思う」「そう思う」の合計が増えている、かつ、「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が減っているコースが多いことから、人的ネットワークの構築の取組みの見直しによって改善が図られたといえる。

● 受講者の人的ネットワークの構築状況

人的ネットワークを作ることができましたか？

※2期は3/10時点のデータで集計



2-3. 人的ネットワークの構築に関するアンケート結果

② 人的ネットワークについて(講師・コーディネーター)

講師からは、事前の対面での信頼関係の構築が重要であり、前回より効果があったと感じた方が多かった。

コーディネーターからは、受講生の名簿配布やオンラインでの交流会、資料提供を促すことが有効ではないかとの意見があった。一方、交流会の参加者が少ないため方法の見直しの必要性や、初対面での交流の効果が不明なため時間を追ってその後の効果評価が必要とする意見もあった。

● 講師意見

講義の撮影やリアルタイム演習について、気づいた点や改善点などがあればお書きください。
※人的ネットワークの構築に関する意見を抜粋

<人的ネットワークを構築する方法案>

- リアルタイム演習は、事前のリモート対面(交流会・アイスブレイキング等)で信頼関係がすでにあるとやりやすくなり、対面の場合以上に重要で、かつ対面研修との教育効果の差が少なく、前回より高い効果を感じた(6人)
- あらかじめグループリーダーなどを仮という形で決めた効果か、スムーズに討議が始まっていたと感じた
- テーマ別情報交換の取り組みは良く、今後も継続しても良いと思った
- オンデマンドの講義開始後に交流会をオンラインでやり、同時受講の仲間を知ることは、ネットワーク形成につながる“リアルタイム”体験になったように思う

<オンライン研修での人的ネットワーク構築の課題>

- 気付きを深めたり、テーマについて深く考えるには、対面研修の方が勝っており、リアルタイム研修は、広く浅くという感じ
- 任意参加の意見交換をテーマ別で演習前に実施したが、参加者が思ったより少なく、参加には何らかの躊躇する理由(積極的に発言することへのためらい)があると推察される
(事前に質問があった点への回答にした方がよかったかもしれない。)
- 振り返りのためのディスカッションの時間が短く、受講者も消化不良だと思われ、もう少し長い時間で各自の考えをより共有でき、今後に向けた意識喚起ができたのではないか

● コーディネーター

人的ネットワークの構築について、気づいた点、改善点などがあればお書きください。

<オンライン研修での人的ネットワーク構築の課題>

- かなり遠方からの参加者も散見され、オンライン開催のメリットもあった
- 講義開始直後に、受講生の名簿を配って交流会をオンラインで開催したことは、有効であった
- 研修を通じて2件の取組み事例紹介(データ提供)があった。こうした資料提供を促すことも、人的ネットワークの構築に役立つと考える
- **<オンライン研修での人的ネットワーク構築の課題>**
- 午前中に実施したお悩み相談会は、参加者が少なく、方法を変える必要があると認識している。
- Webでの限界か、初対面での交流の効果が不明で、時間を追って、その後の効果評価が必要。

③ 人的ネットワークの構築(各コースの取組みの工夫)

赤字下線部: 第1期からの変更点

区分	コース	内容
名簿の共有	全コース	<ul style="list-style-type: none"> 連絡先入り名簿を受講者全員に共有した ※連絡先の共有については、受講申し込み時に了承をとった。 連絡先は、所属先の電話番号、メールアドレス
	防災基礎 復旧・復興	<ul style="list-style-type: none"> <u>受講の動機や現在の業務内容など、時間の制約上、全体での自己紹介では話せない「ひとこと」を掲載した名簿を事前に共有した</u>
受講者同士の自己紹介の実施	全コース	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション後、全体での自己紹介を行った。 <u>応急活動・資源管理については、演習の最後に感想も含めた自己紹介を行った</u>
LMS開始前後に交流の場を設定	被災者支援	<ul style="list-style-type: none"> <u>LMS受講開始前に「オープニング交流会」を実施し、互いの学習効果を高めるため事前に繋がる場を設けた</u> <u>ブレイクアウトルームで演習を行う班メンバーに分かれ、自己紹介やお互いの情報交換を行った</u>
	復旧・復興	<ul style="list-style-type: none"> <u>LMS受講中に「研修生オンライン交流会」を実施し、互いの学習効果を高めるため事前に繋がる場を設けた</u> <u>自己紹介、コースの趣旨説明等を行った</u>
	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <u>LMS受講中に「オープニング交流会」を実施し、互いの学習効果を高めるため事前に繋がる場を設けた</u> <u>ランダムに受講生を3等分し、講師が各ルームに分かれて進行、人材育成についての悩みなど受講者同士で討論した</u>
リアルタイム演習当日に交流の場を設定	災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> <u>リアルタイム演習当日の午前中に自由参加の「お悩み情報交換会」を実施した</u> <u>関心の高そうな「行政BCP」「企業・ボランティアとの連携」「住民啓発・自主防災会」の各テーマを30分刻みで取り上げ、自由に入り、意見交換・相談できる場を設けた</u>
	警報避難	<ul style="list-style-type: none"> <u>全体討論後、自由参加の「自由交流会」の場を1時間設けた</u> <u>コースの各講師にも参加いただき、ブレイクアウトルームで講師それぞれの部屋と、受講者だけの部屋を設け、受講者が自由に部屋を移動し、質問、意見交換、交流の時間を持った</u>
	指揮統制	<ul style="list-style-type: none"> <u>全体討論後、コースの各講師にも参加いただき、1時間程度で自由参加の質疑応答(質問会)を実施した</u>
	対策立案	<ul style="list-style-type: none"> <u>全体討論後、コースの各講師にも参加いただき、1時間程度で自由参加の質疑応答(質問会)を実施した</u>
	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <u>事前に参加したいテーマの希望をとり、テーマごとに部屋を設け(各部屋を1講師が進行)、情報交換、悩み相談等の「人材育成に関するテーマ別情報交換会」を実施した</u>
	総合監理	<ul style="list-style-type: none"> 講師、受講生交えての、コース全体に対する<u>質疑応答・意見交換の時間を1期より延長した</u>

2-4. 各コースのリアルタイム演習の特徴

各コースのリアルタイム演習の内容を下記に整理する。

赤字下線部: 第1期からの変更点

コース	演習のタイプ	ブレイクアウト ルームの回数	班替え	演習の特徴
防災基礎	グループ検討、発表、解説、 質疑応答	2回	無 (8班)	災害時に得られる情報を基にした対応シミュレーションを、前提条件と2回の状況・課題提示でグループ検討、市長に説明することを前提に発表、コーディネーター解説、 質疑応答 を実施
災害への備え	グループ検討、発表、解説、 質疑応答	2回	無 (8班)	グループで「深く知りたいこと」「今後実施したい災害への備えの対策」について共有、コーディネーターのコメントを交えながら発表。事前に実施したアンケートの質問に対する回答・解説、 質疑応答 を実施
警報避難	個人ワーク、解説、 グループ検討、発表、 質疑 応答	1回	無 (9班)	避難所点検手順書を使用して避難場所・避難所の認定と適否判断を、個人ワークで行い、講師と意見交換。グループごとにコースを通して学んだこと、もっと知りたかったことを共有、まとめた班の意見をチャットに貼り付け全員に共有・発表、 質疑応答 を実施
応急活動・ 資源管理	グループ検討、発表、解説、 各単元の質問への 解説、 質疑応答	3回	無 (9班)	事前学習で配布した設定シナリオを読み、書き込んできた内容を基に、グループで応援受援に関する情報交換、意見交換を行い代表班が発表。 事前に実施したアンケートの質問に対する回答・解説を時間をかけて丁寧に行い、更に 質疑応答 を実施
被災者支援	講義、グループ検討、発表、 解説、ふり返り	2回	無 (6班)	トイレのガイドラインの講義後、各班のファシリテーターを中心として、グループで「災害時のトイレの必要数計算シート」の記入・検討、コースのふり返りでは、受講者中心でグループの意見共有、各班がまとめた意見をチャットに書き込み発表。(ファシリテーターを中心に意見交換が活発に行われた)
復旧・復興	グループ検討、発表、講義、 質疑応答	2回	無 (9班)	国・県・市で班分け。演習では宿題の結果記入シート(Word)を事前に配布し、当日グループ内で発表・意見の取りまとめをし、一部の班が全体で発表。全体討論も同じやり方で一部の班が発表。 各発表後に質疑応答の時間を設けた。 最後にコーディネーターが講義とコース全体のまとめを実施
指揮統制	記者会見・講評、グループ 検討、発表、 質疑応答 、解 説、ふり返り	2回	有 (10→8班)	1単元目は、作成済み原稿での記者会見と講評、その内容を受けてのグループ討議、 質疑応答 。2単元目は、 グループで各単元に対する感想・質問を整理して発表、コーディネーターと講師が回答した。 テスト問題作成と感想をチャットで提出。また、事前に実施したアンケートの質問に対する回答・解説を行った。
対策立案	講義、グループ検討、発表、 質疑応答 、解説、ふり返り	3回	有 (8→8班)	1単元目は、事前配布の資料一式とホームワーク(帳票作成)を基にグループで議論。首長レクをイメージし代表班が発表。2単元目は、 グループで各単元に対する感想・質問を整理して発表、コーディネーターと講師が回答した。 テスト問題作成と感想をチャットで提出。また、事前に実施したアンケートの質問に対する回答・解説を行った。
人材育成	グループ検討、発表、 情報 交換会 、 質疑応答 、講師コ メント	5回	4回 (10→6→ 11班)	1単元目は、事前に読み込んできた体験談をもとにグループ討議と発表(エスノグラフィー演習)、2単元目は、 6つのテーマから事前に選んだ希望のグループで班割し、各部屋を担当する講師中心に情報交換会を行った。 3単元目は、3つのテーマごとにグループ討議を実施。各班のまとめた意見をチャットに貼り付け、テーマごとに講師がコメント・講評
総合監理	座学、 質疑応答 、講義	-	-	2名の講師による講義後、 質疑応答 。コーディネーターも含め回答。質問が多く活発なやり取りがなされる傾向があるため、 質疑応答の時間を多めにとった。 最後にコーディネーターが講義とコース全体のまとめを実施